

# 令和2年度厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区

関東甲信越地区では、痛みセンターとして大学病院の8施設が連携しながら、それぞれの地区に応じた慢性疼痛診療の普及と人材育成を施行した。

1. 広報と診療連携の推進を目的に、関東甲信越地区ホームページを令和2年から開設した。

<https://itami.paincenter-kanto-koshinetsu-region.jp>

- 1) 研修会の開催の広報
- 2) 患者さんへの慢性疼痛診療のアクセス広報
- 3) 日本痛み財団、認定NPO法人痛み医学研究情報センター、慢性の痛み政策ホームページ、各疼痛関連学会に繋がるホームページ
- 4) 各年度のモデル事業報告



2. COVID19 感染下において、原則的にはWEBを通じての、活動を施行した。

- 1) 慢性疼痛診療研修会は、日本痛み財団と共催してリモートで施行された。
- 2) 各施設の得意分野を生かして人材育成のための教育的講演、症例提示、カンファレンスなどが、リモートで施行された。リモートであるため、他施設や他地区で開催されているものに関しても、出席が可能であるメリットが示された。

## 令和2年度2020年度順天堂(大学)医院の実績

当大学医学部附属順天堂医院（本院）ペインクリニックでは、慢性疼痛患者に対してより適切な治療やケアを提供するために、疼痛の評価と治療の選択を、多角的な視点から多職種で施行している。

### 全メンバー構成

	所属	職種	名前
代表者	順天堂大学 医学部 麻酔科・ペインクリニック講座 大学院 医学研究科疼痛制御学	医師・教授	井関 雅子
協力者	順天堂大学東京江東高齢者センター	医師・教授	山口 敬介
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助教	千葉 聡子
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助教	濱岡 早枝子
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助教	原 厚子
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	鈴木 博子
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	河合 愛子
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	菊地 暢子
協力者	順天堂大学医学部 麻酔科・ペインクリニック講座	医師・助手	清水 礼佳
協力者	順天堂大学大学院医学研究科 疼痛制御学	臨床心理士	村上 安壽子
協力者	順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室	理学療法士	会田 記章
協力者	順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部	看護師	寺田 茉莉
協力者	順天堂大学大学院医学研究科 疼痛制御学	研究生	藤井 百合子
連携機関	順天堂大学医学部附属静岡病院 麻酔科	医師・教授	岡崎 敦
連携機関	順天堂大学大学院附属練馬病院 麻酔科	医師・准教授	田邊 豊
連携機関	都立墨東病院麻酔科	医師・部長	鈴木 健雄
連携機関	都立駒込病院麻酔科	医師・部長	佐藤 洋
連携機関	日本大学歯学部付属歯科病院	歯科医師・教授	今村 佳樹
連携機関	東京医科大学麻酔科学教室	医師・教授	内野 博之

## 1. 連携システムの構築

本年度は、各痛みセンター間の連携、連携施設や近隣施設との慢性疼痛診療連携、医科-歯科の連携を施行した。

近隣機関からの慢性疼痛診療依頼：77件

## 2. 日本痛み財団共催の慢性疼痛診療研修会

本年度は2回開催した。

### 1月17日 [第1回日本痛み財団共催の慢性疼痛診療研修会]

29名：医師8 歯科医師1 看護師11 理学療法士5 作業療法士1 薬剤師2 臨床心理士1

厚生労働省 令和2年度 慢性疼痛診療体制モデル事業 / 関東甲信越地区  
順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 主催

## 慢性疼痛診療研修会

令和2年度 厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（関東甲信越地区－順天堂大学）慢性疼痛診療研修会を開催いたします。参加対象者は、関東甲信越地区の施設勤務の医療従事者に限定とさせていただきます。

日時：2021年1月17日（日）9:00～12:30 \*受付8:45～

会場：ZoomによるWEBライブ配信

対象：医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、介護士、その他の医療従事者

参加費：無料 ※定員40名 先着順 ※事前申込必須

### 研修会プログラム

1. 痛みの多元性を知ろう！ 20分（井関 雅子）
2. ICD-11慢性疼痛分類と疼痛疾患を理解しよう 20分（河合 愛子）
3. 痛みの多面的評価を知ろう 20分（鈴木 博子）
4. 痛みの治療の知識をつけよう 1：  
薬物療法と神経ブロック療法 30分（千葉 聡子）
5. 痛みの治療の知識をつけよう 2：心理療法 20分（村上 安壽子）
6. 痛みの治療の知識をつけよう 3：運動療法 20分（会田 記章）
7. 一緒に症例を検討しよう 50分（山口 敬介 / 濱岡 早枝子）

### 参加申込

以下のフォームより事前参加申込みをお願い致します。  
<https://forms.gle/MWzo5zo5SSS28MF4A>

事前参加申込期間 1月11日（月・祝）まで

\*定員になり次第 締め切ります

お問合せ先：一般財団法人日本いたみ財団 事務局 Email：[itamizaidan@gmail.com](mailto:itamizaidan@gmail.com)

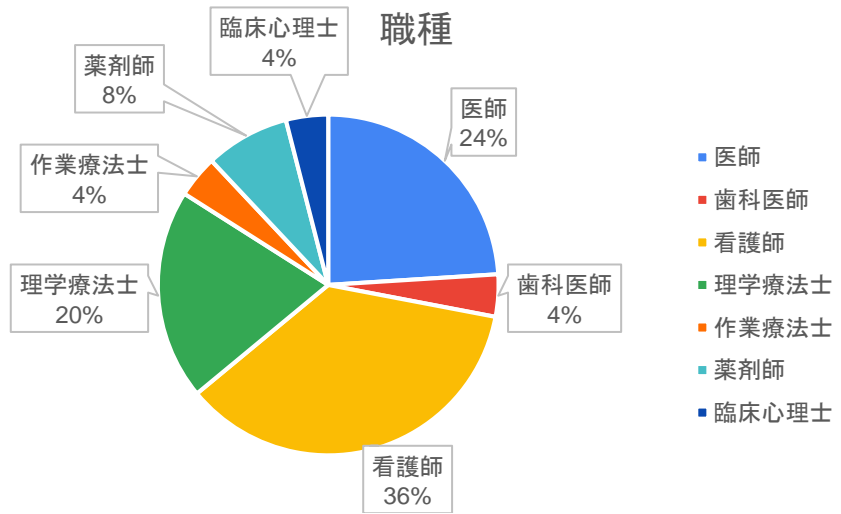
主催：厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区」  
順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座  
共催：一般財団法人日本いたみ財団

## アンケート集計 回答数 25 名

① 性別 男性 8 名  
女性 17 名

### ① 職種

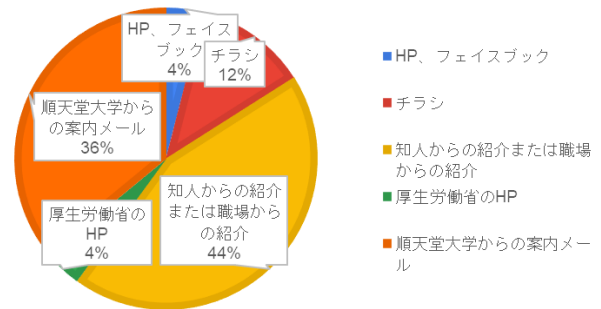
医師 6 名  
歯科医師 1 名  
看護師 9 名  
理学療法士 5 名  
作業療法士 1 名  
薬剤師 2 名  
臨床心理士 1 名



### ② 研修会について何で知りましたか？

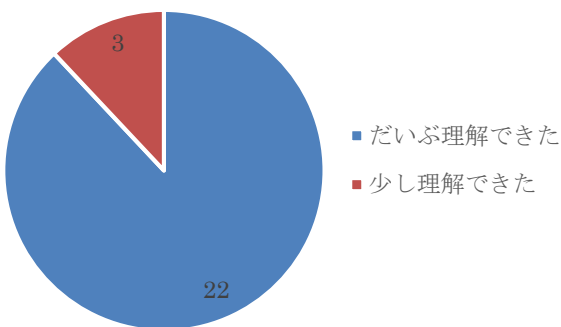
HP、フェイスブック 1 名  
チラシ 3 名  
知人からの紹介または職場からの紹介 11 名  
厚生労働省の HP 1 名  
順天堂大学からの案内メール 9 名

### 研修会について何で知りましたか？

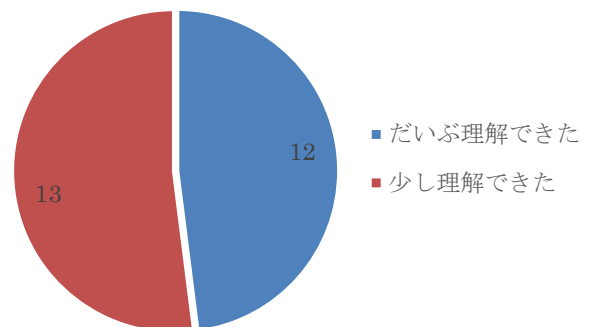


### ③ 研修会内容について

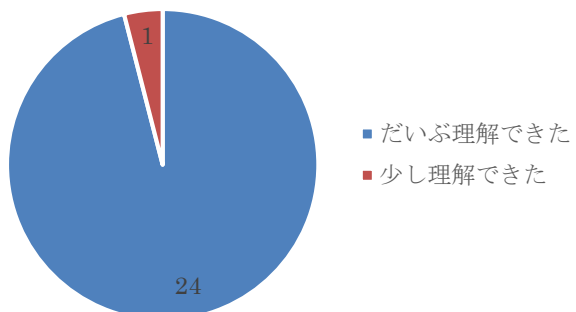
急性痛と慢性痛の違いについて  
理解できたか？



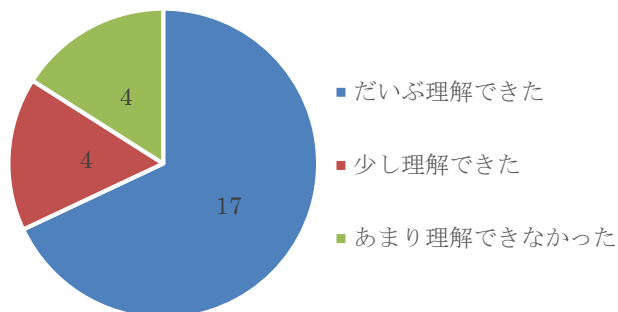
ICD-11における慢性疼痛分類の  
考え方について理解できたか？



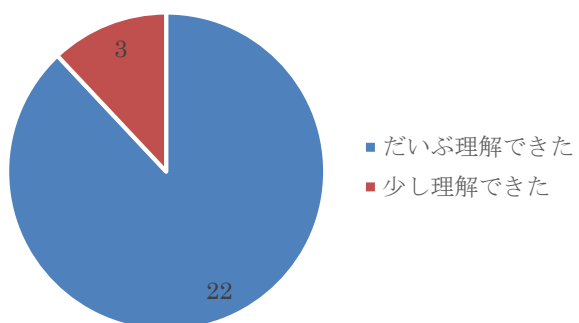
慢性痛には、器質的因子以外に心理社会的な因子が関与していることが理解できたか？



慢性痛の薬物療法における強オピオイドの位置付けを理解できたか？



慢性痛の治療における運動療法の位置付けを理解できたか？



## 本日の研修会で良かった点

- ・ケーススタディとして、症例情報から具体的な検査や対応について、多人数でディスカッションできたのが良かったです。ありがとうございました。
- ・ファシリテーターの方が円滑に会をすすめてくださいました。
- ・専門性の異なる職種でのグループワーク
- ・多職種の参加
- ・グループワークで、職種の違う方達の着眼点が参考になった
- ・慢性疼痛を系統的にまなばせていただき、とても勉強になりました。ファシリテータの先生ありがとうございました。
- ・様々な職種で意見交換出来た
- ・多職種の方の意見がとても参考になりました。また協働していくことの重要性を改めて考えさせられました。
- ・講義を通じて慢性疼痛に対する理解が深まったことと、多職種の方が参加していたので、グループセッションではいろんな方向性・考え方を得ることができました。
- ・リハビリ観点意外の薬剤の依存などを知れてよかった。
- ・少人数でのグループディスカッションが行えた点。様々な職種の受講者が割り振られていたので、勉強になりました。また、ファシリテーターの先生が各自のコメントを適切に拾ってまとめてくださったので症例の理解が促進されました。
- ・短時間で集中できた点がとても良かったです。
- また、ファシリテーターのガイドが素晴らしかったので、思い切って基礎的な質問もでき、大変、助かりました。
- ・広範囲な内容を簡潔にまとめていただき効率よく勉強できた。今後の治療に役立てることが出来そうである。
- ・多職種でのグループワークが様々な視点から意見が出たので良かったと思う。
- ・慢性疼痛に対する多角的な診療、評価、治療について再学習できた。コミュニケーションスキル、CBTの流れなどについて理解できた。症例検討で、心理社会的な要因の大きい症例を検討できた。
- ・配布いただいた教科書が大変勉強になるのと、慢性疼痛の多面性を感じることができたプログラムであった点です。ファシリテーターの先生をつけてくださった配慮も良かったです。
- ・現在の痛み治療の考え方・概略を短時間にまとめご講義いただけたものと感じております。症例提示についても外来で遭遇する機会が多いが、解決に難渋することが予想され、領域横断的な判断とケアが必要となる示唆に富んだ症例だったと思います。
- ・他職種違う立場で、役割が異なることがグループワークを通して理解できたこと。
- ・思考時間があったこと。他職種の考えが聞けたこと。心理士は普段いないので。
- ・症例検討
- ・他職種でグループワークできたこと
- ・他職種が集まったグループワークだったので、さまざまな視点からの意見交換ができたと思います。
- ・オンラインではありましたが、インタラクティブな研修会でしたので、一つ一つを考える事ができました。
- ・グループカンファレンスで様々な意見を聞くことができた点が良かったです。
- ・コロナ禍で研修や講習会が中止となり、多職種の方々とお話しする機会ができ良かったです。初めて ZOOM ならえ、緊張して上手く話せませんでした。ファシリテーターやグループの方々が無言で待っていてくれたので終わった後に反省と感謝の気持ちでした。ありがとうございました。

## 本日の研修会で改善して欲しいと思った点

- ・可能であれば発表資料を頂けると良かったです。
  - ・看護師の立場からの講義もうかがいたかったです。
  - ・先生方の発表スライドが、研修資料として事前に欲しかったです。
- また、学び直しをするためにも配布して下さると助かります。本日はありがとうございました。
- ・ありません
  - ・特になし。ありがとうございました
  - ・特にありません
  - ・各セッションにも、具体的な症例提示があると良かったかなと思います
  - ・質問への回答が次の講義中になってしまい、一時的にですがどちらにも集中できなくなりました点。
  - ・私自身がグループワーク慣れていないせいもあると思いますが、ディスカッションの時間がやや短く十分な議論ができなかったです。
  - ・ディスカッションでファシリテーターの意見も聞きたい

- ・講義がコンパクトにまとまっており充実していた一方で、手元に資料がないので情報が過多に感じられる部分もありました。あとで復習もしたいので、ハンドアウトがいただければ尚よいと思いました。
- ・講義が次から次へと進んで行くので、ついて行くのが大変でした(私の能力的に。レジュメがあると、より話に注力できるので有り難いです。実り多い時間を、どうもありがとうございました。
- ・ハンドアウトを配布して欲しい。
- ・特にございません。大変な状況の中、このような興味深い勉強会をご準備いただきまして感謝申し上げます。
- ・グループワークで、Gファシリテーターのパソコンからの声に、他のGFの声がかぶってしまい、聞き取り辛い時があった。各講義の質問への回答をチャットでということでしたが、次の講義が始まっているので、なかなか答えにくかった。Gからの発表で、発表者がいなかったのは、おそらく、グループからの離脱のときに、Zoomからの離脱のボタンを押してしまったために(ボタンが上下に並んでいて不注意からも押しやすい)、不在になったことが考えられるため、そうした注意が必要ではないだろうか。
- ・1回だと吸収しきれず、ついていくのに精いっぱいだったので、今日を総論として、各論をシリーズ化していただけたらありがたいと感じました。しかし改善してほしいと思ったことはないです。
- ・前半講義の部分についてプレゼン方法等工夫をしていただけると、講義時間内に、より知識の定着を図れるものと思います。
- ・事前に配布資料があると、短時間の講義内容の理解を助けると思います。
- ・スライド資料は、復習のためには必要なもので、頂ければ有難いです。教科書に書かれていないことがたくさんありました。
- ・特になし
- ・リハビリは、実際の動画などを見てみたかった。
- ・特にありません。
- ・各セッションで最後に問題がでていましたが、回答している際に次のセッションが始まってしまったので、回答の次回を2、3分頂けたらよかったなと感じました。
- ・特にありません
- ・ZOOMが初めてだったので、特にありません。



## 2月27日 [第2回日本痛み財団共催の慢性疼痛診療研修会]

28名：医師3 歯科医師5 看護師4 理学療法士5 作業療法士1 薬剤師5 鍼灸師5

令和2年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

### 第2回 順天堂大学慢性疼痛診療研修会

関東甲信越地区 順天堂大学主催の慢性疼痛診療研修会を開催いたします。  
参加対象者は、**関東甲信越地区の施設勤務の医療従事者**に限定とさせていただきます。関係各位の皆様、お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

◎日 時◎ 2021年2月27日(土) 14:00~17:30

◎会 場◎ ZoomによるWEBライブ配信

◎対 象◎ 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・ソーシャルワーカー・介護士・その他の医療従事者

#### 研修会プログラム

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| 1. 痛みの多元性を知ろう!             | 15分 |
| 2. ICD-11慢性疼痛分類と疼痛疾患を理解しよう | 20分 |
| 3. 痛みの多面的評価を知ろう            | 20分 |
| 4. 痛みの治療の知識をつけよう           |     |
| ①薬物療法と神経ブロック療法             | 30分 |
| ②心理療法                      | 20分 |
| ③運動療法                      | 20分 |
| 5. 一緒に症例を検討しよう             | 50分 |

参加費：無料  
定員40名 先着順  
\*事前申込必須\*

参加申込方法 以下の事前参加申込フォームよりお申込みください。  
<https://forms.gle/e1NFmDni1S4N4LiL6>

◆参加申込期限◆2月20日(月)まで  
\*定員になり次第締め切ります\*



お問い合わせ先：一般財団法人日本いたみ財団 事務局 Email [itamizaidan@gmail.com](mailto:itamizaidan@gmail.com)

[主催] 厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区」  
順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座  
[共催] 一般財団法人日本いたみ財団



### 3. 人材育成研修

#### 2月16日 痛みと心のカンファレンス

対象を連携施設を中心として、人材育成のため症例検討も交えた全員参加型の「痛みと心のカンファレンス」を施行した。

24名：医師15名 歯科医師3名 理学療法士/作業療法士5名 臨床心理士1名

厚生労働省 令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 痛みと心のカンファレンス 順天堂大学病院合同 慢性疼痛症例検討会

日常の慢性疼痛診療の中で、患者さんに医療者の想いがうまく伝わらなかったり、なかなか良い治療法が見つからなかったりと、悩むことは多いかと思えます。そんな時には、他科の先生からの評価や専門性の高い先生からのアドバイスが有効であったりします。また、毎日慢性疼痛診療をおこなっているペインクリニック医の意見も貴重です。今回は、そのような主旨から、カンファレンスを開くこととしました。そして、なによりも患者さんを想って頑張っている担当医と臨床心理士にとっても、有用なカンファレンスとなればと願っております。

2021年 **2月16日(火)** 19:20～20:20  
\* 19:00オープン

ZoomによるWEBライブ配信

アクセス方法につきましては、参加申込後別途メールにてご案内させていただきます

司会：順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 井関 雅子

#### 症例検討：顔面の難治性帯状疱疹後神経痛の治療とケアについて

- ① 担当医として症例提示と痛みの評価・患者説明・治療方向性  
順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 鈴木 博子  
(追加発言 / 質疑応答)
- ② 臨床心理士としての評価とケアの方向性  
順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 村上 安壽子  
(追加発言 / 質疑応答)
- ③ 当科から紹介した慢性疼痛診療連携病院からのアドバイス  
日本大学歯学部 口腔診断学講座 教授 今村 佳樹 先生
- ④ 心理・精神領域からのアドバイス  
東京大学病院 痛みセンター 助教 笠原 諭 先生
- ⑤ 全体討論

主催

厚生労働省 令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業  
関東甲信越地区 / 順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座

# 横浜市立大学附属市民総合医療センター

## ペインクリニック内科の取り組み

事業責任者 横浜市立大学附属市民総合医療センター 診療教授 北原 雅樹  
事務局コーディネーター3名 浅枝 まり子 (事務局長 公認心理師)  
星野 諒太 (公認心理師 (合格))  
大河原 貴子 (事務スタッフ)

## 2020 年度の事業報告

横浜市立大学附属市民総合医療センターは 2020 年度の厚労省受託事業で、前年度まで続けていた活動に加え、地域の診療ネットワーク構築および慢性痛に関する知識の普及啓発活動に注力した。

前年度から引き続き、神奈川県における慢性痛対策としての啓発活動による事業資金もあったことにより、2020 年度はより一層事業の厚みを増すことが出来た。前年度に続き、当院ペインクリニック内科では、事務局を設立して事業に専任するスタッフ（コーディネーター）を3名雇用し、地域における慢性痛の普及啓発活動に力を尽くした。

その活動は以下の4分野である。

1. 地域における普及啓発活動（WEB開催の講演会、セミナーなど）
2. 短期の研修生受け入れ、および医療職のカンファレンスなどの見学交流事業
3. 医師会、在宅診療室、その他地域の医療施設訪問による交流、啓発、情報交換活動
4. 厚労省受託事業資金による厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（関東甲信越地区 横浜市立大学）慢性疼痛診療研修会

### 1. 地域における普及啓発活動（WEB開催の講演会、セミナーなど）

これらは今まで face to face で行ってきた事業である。今年度は新型コロナウイルスの影響で講演会や研修会はほぼ全てがオンライン開催となった。実施回数や参加人数も例年よりは少なくなったが、製薬会社の支援もあり少数精鋭で開催することが出来た。

#### ■ 横浜 地域痛みの懇話会

これは横浜市立大学市民総合医療センター ペインクリニック内科・整形外科共催の講演会を含む地域開業医との懇話会であり、2017 年以来毎年行われている。地元の開業医から症例を提示し、開業医が慢性痛を診療する上での問題点や、開業医としての長所・短所など

を発表してもらい、その症例に基づき討論を行って相互に研鑽し、親睦を深めるという趣旨の事業である。今年はオンライン上開催となったが、質疑応答が活発に行なわれ、非常に有意義なものとなった。この懇話会は今年で4年目になり、このような草の根的な地道な活動を積み重ねることで地域医療者への普及啓発活動は確実に実を結びつつある。その効果は当院に送られてくる紹介状の文面などに現われてきており、今年は特にその成果を実感とした1年となった。

### ■ 心ころと痛みのベイサイドセミナー

毎年開催して4年目になる慢性痛に対する心理社会的視点についての講演会である。毎年非常に人気のある講演会であり、今年はオンラインで例年より参加人数は少なかったが、質疑応答はかえって活発であった。また講師が当院ペインクリニックの精神科医 平林万紀彦医師 であった事、また平林医師が森田療法の権威であり、治療抵抗性の重症の慢性痛患者に対する森田療法的介入で大きな実績を上げていることもあり、実りの多いセミナーとなった。

### ■ 横浜市旭区、瀬谷区での講演会 「慢性痛 WEB セミナー」

旭区・瀬谷区の医師会から招請され、WEB 講演会を開催した。旭区、瀬谷区では以前も慢性痛についての講演をおこなったことがあり、今回は『慢性痛治療のコツ part 2 ー生活習慣病と疼痛管理ー』として、日常臨床での慢性痛診療のコツ、生活習慣病との関連や疼痛管理に大切なことなど、慢性痛のプライマリケアに必要不可欠な知識についてお話しした。このように地元医師会の後援で行われる講演会は診療ネットワーク体制構築のために非常に貴重な機会であった（添付資料1）

## 2. 研修医受け入れ、及びカンファレンスにおける医療職の見学交流事業

局所的な痛み注目するだけでなく、心理社会的因子を含めて患者を全人的に診療する慢性痛診療に習熟するためには、医療職の教育は単に知識を与えるだけでは不十分である。当院では、毎週金曜日 13:00~14:30 に行われる精神・心理・重症カンファレンスを対象に、事前申し込みによる医療職の見学を受け入れている。

このカンファレンス見学では心理社会的因子の強い治療抵抗性の患者の症例が実際に見学できるため、非常に見学者の満足が高い。今年度は特に国会議員や厚生労働省技官の方々、衆議院法制局からの見学者も来院し、集学的治療の啓発に役立った。また、国会議員の見学では痛みセンターで行われている診療に関して、医療以外に社会福祉制度との連携が必要な事など活発な議論が行われた。

### [見学者の内訳]

- ・精神科医 1名
- ・歯科医師 1名
- ・国会議員 6名（うち医師 2名）
- ・衆議院法制局 3名
- ・社会福祉協議会理事長 1名
- ・社会事業大学教授 1名
- ・鍼灸師 3名
- ・厚生労働省疾病対策課より技官 3名

また、今年度は自衛隊病院 麻酔科より週一回の研修生を4か月間受け入れた。

※見学者からの感想（添付資料）

### 3. 医師会・在宅診療室・その他地域の医療施設訪問による交流 / 啓発 / 情報交換活動

2020 年度は新型コロナウイルスの影響で、それまでのように医療職が集まって行われるブロック会議や地域医療者連携会議などが中止になった。そのため、2019 年度に何回か行ったような多人数を対象とする啓発、情報交換活動は行うことができなかった。しかし地域の医師会をコーディネーターが個別に訪問して、医師会の事務局長等と面談し、様々な啓発活動への理解を求める交流、啓発、情報交換活動を行った。以下、訪問先をまとめる。

表2-1 交流、啓発、情報交換活動の訪問先

日時	訪問先	担当者	当院担当者
2020/8/26	横浜市医師会	学術広報課 池田課長	コーディネーター 大河原 貴子
2020/8/27	三浦市医師会	事務局 堺	コーディネーター 大河原 貴子
2020/8/27	三浦市社会福祉協議会	事務局 成田	コーディネーター 大河原 貴子
2020/9/2	神奈川県病院協会	事務局 町田	コーディネーター 大河原 貴子
	社会福祉法人 心の会	院長	コーディネーター
2020/12/12	三輪医院	千場 純	大河原 貴子 浅枝 まり子

上記のほかに、普及啓発のためにメール、チラシ、お知らせなどによって慢性痛のメカニズムと集学的治療について説明を送付し、普及啓発活動を行った対象施設、担当者を下記表に記した。草の根的活動で少しずつ慢性痛とその診療についての普及啓発を行っている(表2-2)。

表2-2 普及啓発活動を行った対象施設、担当者

団体名	職・氏名	団体からの周知先	備考	担当課
(公社) 神奈川県医師会	会長 菊岡 正和	郡市医師会及び会員		医療課
(一社) 神奈川県歯科医師会	会長 松井 克之	郡市歯科医師会及び会員		医療課
(公社) 神奈川県病院協会	会長 新江 良一	会員		医療課
(公社) 全日本病院協会神奈川県支部	支部長 山本 登	会員		医療課
学校法人 北里研究所	理事長 小林 弘祐			医療課
横浜市立大学	理事長 二見 良之			医療課
学校法人 東海大学	理事長 松前 義昭			医療課
学校法人 聖マリアンナ医科大学	理事長 明石 勝也			医療課
(独) 国立病院機構	理事長 楠岡 英雄	神奈川県内5病院		医療課
(独) 地域医療機能推進機構	理事長 尾身 茂	神奈川県内4病院		医療課
神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会	会長 船橋 庄司	会員	在宅医療推進協議会委員	医療課
(一社) 神奈川県医療ソーシャルワーカー協会	会長 藤田 寛	会員		医療課
(一社) 神奈川県訪問看護ステーション協議会	会長 清崎 由美子			医療課
(公社) 神奈川県看護協会	会長 花井 恵子			医療課
(公社) 神奈川県助産師会	会長 村上 明美			医療課
神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会	会長 新江 良一			医療課
神奈川県看護師等養成機関連絡協議会	会長 城戸 滋里			医療課
神奈川県看護部長会	会長代行 田中 龍子			医療課
(一社) 神奈川県老人保健施設協会看護部会	会長 柴田 淑子			医療課
(一社) 横浜在宅看護協議会	会長 栗原 美穂子			医療課
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会	会長 篠原 正治	関係者	在宅医療推進協議会委員	地域福祉課
(一社) 神奈川県介護支援専門員協会	理事長 青地 千晴	貴会員	在宅医療推進協議会委員	地域福祉課
神奈川県民生委員児童委員協議会	会長 桐生 行雄	民生委員児童委員	在宅医療推進協議会委員	地域福祉課
(一社) 神奈川県高齢者福祉施設協議会	会長 加藤 馨	会員	在宅医療推進協議会委員	高齢福祉課
(公財) 神奈川県老人クラブ連合会	理事長 樋口 恢作	各市町村老人クラブ連合会	在宅医療推進協議会委員	高齢福祉課
神奈川県重症心身障害児者協議会	会長 江川 文誠	会員		障害福祉課
(公社) 神奈川県薬剤師会	会長 鶴飼 典男	地区薬剤師会及び会員		薬務課
(公社) 神奈川県病院薬剤師会	会長 金田 光正	会員		薬務課

## 4. 厚労省受託事業資金を利用しての事業

今年度の厚労省受託事業資金の事業として、2021年3月7日に一般社団法人痛み財団のプログラムによる厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（関東甲信越地区 | 横浜市立大学）慢性疼痛診療研修会を開催した。今回は、コロナ禍のため、オンライン開催となった。概要は以下の通りである。

事前に収録した疼痛医学のテキストをまとめた動画を参加者に当日参加時点までに視聴してもらい、当日はワークショップのみという形で開催した。ワークショップでは、事前に視聴した動画についての質疑応答を行った後で、ファシリテーターを含む6人程度のグループに分かれて提示された症例についての検討と意見交換を行った。参加した多職種から活発な意見がだされ、オンラインながらも交流が深まった。

以下がプログラムである。（添付資料2）

### 令和2年度慢性痛診療オンライン研修会

日時：2021年3月7日 10:00～12:00

参加者：32名

講師・司会：北原

ファシリテーター：望月、鮎川、野口、五十嵐、浅枝（コーディネーター兼任）

総合管理：内藤

参加者32名 アウトブレイクルームで5つに分けてディスカッションをした。

表2-3 研修会時程

時刻	スタイル	内容
9:45～10:00	全体	参加者がZoomにインし、通信状態の確認等を行う。
10:00～10:10	全体	講師（北原）挨拶。操作説明（内藤）
10:10～10:20	グループ	アイスブレイク
10:20～10:30	全体	オンデマンド講義に対する質疑応答
10:30～10:40	全体	症例提示
10:40～10:50	グループ	ディスカッション1タイム
10:50～11:00	全体	ディスカッション1の総合討論
11:00～11:05	全体	追加提示
11:05～11:15	グループ	ディスカッション2タイム
11:15～11:25		休憩
11:25～11:35	全体	ディスカッション2の総合討論
11:35～11:40	全体	問題点の提示
11:40～11:45	グループ	ディスカッション3タイム
11:45～11:50	全体	ディスカッション3の総合討論
11:50～11:55	全体	治療方針案の提示
11:55～12:00	全体	全体討論、まとめ



## ■ 提示した症例

**症例：78 歳女性**

**主訴：**腰背部痛、両下腿のしびれ

### **現病歴：**

それまでは日常生活に全く不自由はなかった。家事はすべて自分でやっており、片道約 1km のスーパーまで 2 日に 1 回は買い物に行っていた。老人会の華道教室の講師として週 1 回は教えていた。26 か月前：急に腰部に激痛。L3 圧迫骨折の Dx、安静を中心に 1 か月入院。激痛は治まったが、退院後、家事をようやくこなす程度。買い物には行けなくなり、食事の材料などは娘が買ってくる。複数の医療機関で各種神経ブロックは効果が無かった。手術適応はないといわれた。

### **嗜好品：**

喫煙歴なし。酒は 50 代までは週 2 回位。

### **家族構成：**

エレベータ付きマンションの 5 階の部屋で独居（4 年前に 5 歳年上の配偶者と死別）。子供は長男と長女。長女（50 歳）夫婦が自転車で 10 分のところに居住。長男（48 歳）は遠方に居住。年金+貯金などで、贅沢はできないが当面のお金には困らない。

**既往歴：**高血圧

### **常用薬：**

血圧に対して：ARB・利尿薬配合剤

睡眠導入剤：プロマゼパム 2mg+エチゾラム 0.5mg（週 1~2 回）

鎮痛薬：ロキソプロフェン 3T/3x, レバミピド 3T/3x, トラマドール/アセトアミノフェン配合剤 3T/3x, プレガバリン 75mg 4T/2x

### **現症：**

151cm、BW 50.5⇒44.5（最近 6 か月間で）

腰背部全体～両臀部にかけて強い痛みがある。

足腰に力が入りにくく、ふらつくことが多くなった。

痛みではなく何となく寝つきが悪いが睡眠薬で眠れる。

週に 2~3 回夜トイレなどで目が覚めると痛い。

### **神経学的所見：**

DTR knee 2+/2+, ankle 1+/1+. Babinski -/- . 下肢筋力低下（MMT Quad 3+/3+, TA

4/4, EHL 4/4, Hum 3+/3+, Glu 4/4）異常反射はない。両ひざ下にストッキング型に末梢に行くほど強い感覚低下あり。ROM 股関節の外旋外転が両側性に軽度制限。

### **検査所見：**

WBC 6,700/ $\mu$ l、RBC 320 万/ $\mu$ l、Hb 11.1g/dl、Plt 18.6 万/ $\mu$ l

TP 6.2g/dl、Alb 3.5g/dl、CPK 92U/L、GOT 36U/L、GPT 48U/L、 $\gamma$ GTP

76U/L、ALP 238U/L、Cre 1.1 mg/dl、eGFR 37.2 mL/min/1.73m<sup>2</sup>、UA 3.9mg/dl、

TG 120 mg/dl、Tcho 220mg/dl、Na148meq/L、K 4.1meq/L、Cl 110 meq/L、Ca

8.3mg/dl、CRP 0.46mg/dl



## ■ 2021年3月7日研修会のアンケートの分析

### 調査協力者

2021年3月7日の研修会に参加し、所定のアンケートに回答したものを対象とした。調査協力者の職種別の人数と割合を表2-4に示す。調査協力者は理学療法士が最も多く、全体の約27%を占めていた。続いて医師が多く、理学療法士と医師で全体の約50%を占めていた。このことから本研修会は、医師や理学療法士に人気であったと考えられる。

表2-4 調査協力者の職種別人数と割合

職名	人数	比率
理学療法士	7名	27%
医師	6名	23%
心理士	4名	15%
介護職	3名	12%
薬剤師	2名	8%
歯科医師	2名	8%
鍼灸師	2名	8%
合計	26名	100%

## 調査項目

以下の全 20 項目から算出される合成得点が、研修会の前後で変化があるかを検討した。

表2-5 アンケートに用いた項目

番号	項目	正誤
1	慢性痛の場合、まずは安静を第一に考え、日常の活動であってもできるだけ制限することが必要である。	×
2	オピオイド鎮痛薬の導入前には心理社会的要因についての評価を必ず実施し、慎重に適応を判断する	○
3	痛み行動には、中立に対応し、それを強化しないようにする	○
4	慢性疼痛患者の痛みの訴えが最も治療に重要なので、家族や患者周囲からの情報は必要ない。	×
5	侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛は常に独立した病態である。	×
6	急性腰痛では、安静にしていないと慢性腰痛に移行する確率が高い。	×
7	急性腰痛では痛みが治まるまで安静を継続する必要がある。	×
8	慢性痛に対する治療では、インターベンショナル治療においてもADLやQOLの向上が治療目標であり、患者さんと認識を共有することが重要である。	○
9	慢性痛患者に対する運動や活動維持は痛みや機能障害の改善に奏効する。	○
10	慢性痛の場合でも時折、器質的異常が見つかる場合があるので、定期的な臨床検査は必要である。	○
11	国際疾病分類(ICD-11)において各診断(子カテゴリー)は異なる2つの親カテゴリーを保持することが可能である。	○
12	患者の痛みの訴えを聞く際には、その訴え内容を受け入れ、患者の疼痛行動に共感する姿勢が必要である。	○
13	自己効力感 (Self-efficacy) の向上は、しばしば痛みそのものの軽減につながる。	○
14	オピオイド鎮痛薬が有効であれば、継続使用の是非は問わない	×
15	慢性痛の診断・治療には、家族関係の把握も重要である。	○
16	慢性痛患者の診療の際は、患者が前医の判断に文句をいう場合があるので、患者への共感態度を示すため、前医が正しくないことに同調することが必要である。	×
17	慢性痛に対する運動療法は、可能な限り早めに強度を上げて運動習慣を形成することが好ましい。	×
18	痛みを訴えることで、周囲からのケアが増えることは、疾病利得の一つである	○
19	腰痛の発症と遷延に心理社会的因子が関与している	○
20	オピオイド系鎮痛薬に分類されるトラマドールは、非麻薬に分類されるため、その処方について麻薬取扱者免許は必要ない	○

## 平均値差の検定

初めに、研修会の前後で得点の平均値が異なるかを検討するため、研修会の事前テストと事後テストの両方に回答した26名を対象に、対応のある $t$ 検定を行った。その結果、1%水準で有意な差が認められた( $t(25)=-2.87$ ,  $p<.01$ )。すなわち、研修会を受ける前より研修会を受けた後の方が慢性痛に関する理解が深まったと言える。

表2-6 事前テストと事後テストの平均値と標準偏差

	平均	標準偏差	$t$ 値
事前	0.90	0.07	-2.87 **
事後	0.93	0.06	

\*= $p<.05$  \*\*= $p<.01$

## 事後アンケートの分析

次に、研修会内容の理解度に関するアンケートを研修会の参加者に配布し、25件の回答を得た(平均年齢46.6歳、年齢標準偏差9.98)。アンケートは4件法(「4 だいぶ理解できた」「3 少し理解できた」「2 あまり理解できなかった」「1 ほとんど理解できなかった」)で行われた。その結果を表2-7に示す。その結果、理解度は最大値の4に近く、データのばらつきを示す標準偏差も小さかった。そのため、研修会により参加者の知見が深まったと言えるだろう。

表2-7 事後アンケートの各項目の平均値と標準偏差

項目	平均	標準偏差
急性痛と慢性痛の違いについて理解できたか?	3.92	.27
ICD-11における慢性疼痛分類の考え方について理解できたか?	3.32	.55
慢性痛の評価は痛みの程度だけでなく多因子を評価することが重要であることを理解できたか?	3.96	.20
慢性痛には、器質的因子以外に心理社会的な因子が関与していることが理解できたか?	3.96	.20
慢性痛の薬物療法における強オピオイドの位置付けを理解できたか?	3.60	.49
慢性痛の治療における運動療法の位置付けを理解できたか?	3.84	.37
全体	3.77	.22

## 事後アンケートの自由記述

以下に、事後アンケートの自由記述を記載する（原文ママ）。

【43歳男性，柔道整復師】

良かった点：ディスカッションをすることで、他の方の意見・考えを知る事が出来、視野が広がりました。

【42歳女性，医師】

良かった点：いろんな意見が聞けて良かったよい研修会だったと思います

【48歳男性，医師】

良かった点：よくある症例について検討できた。完治はしないので多職種で寄り添って少しでも改善を促すことの重要性が再認識できた。

改善してほしい点：プレテストの説明をしてほしかった。

【47歳，鍼灸師】

良かった点：北原先生のビデオを見てからの参加だったので、ディスカッションにもはいりやすかったです。皆さんの考えをきくのも、そのあと、北原先生の考えを聞くのも楽しみに、時間を過ごしました。

改善してほしい点：ディスカッション時、ご家族の音声を拾ってしまい、発言者の声が聞きづらかったのので、発言者以外は音声オフでよいと思います。

【57歳男性，医師】

良かった点：オンラインでできたことで移動の必要なく気軽に参加できたこと

改善してほしい点：多職種が具体的に実践的にどのような介入ができるかを議論できる素材を提供いただきたかった。

【46歳男性，鍼灸師】

良かった点：医療機関の方のご意見を直接機会がほとんど無いので大変勉強になりました。それを踏まえて鍼灸マッサージやトレーナーとして出来ることが見えてきたような気がします。横浜での鍼灸の施術もしているので、北原先生が紹介されていた鍼灸のグループにも機会があれば参加したいと思いました。

改善してほしい点：特にありません。グループワークは最初少し緊張しましたが、ファシリテーターの方がうまくコントロールして頂き、大変よい学びを得ることができました。

【46歳女性，薬剤師】

良かった点：色々な職種の方の視点がためになった

改善してほしい点：改善点ではなくて。どこに質問を書けばいいのか分からなかったのので、すみませんがここに書かせて頂きます。私は病院の近くにある薬局ではなく、面薬局の薬剤師なので、病院やDrとの交流を当たり前のように取れる状況ではありません。今日の内容から、薬剤の整理というのは重要で、また手を付けやすい部分でもあると改めて学び、積極的に関わっていければと思いました。しかし普段あまり連携を取っているわけではないDrに、患者さんからの積極的な希望があれば別ですが、減薬や減量の提案をどこまでしているのか躊躇うことも多いです。どのようにアプローチしていくといいでしょうか。

【33歳男性，理学療法士】

良かった点：様々な職種の方とディスカッションできた。

【49歳男性，歯科医師】

良かった点：本日はありがとうございました。とても勉強になりました。事前のYouTubeでの配信は講義時間を省略でき、ディスカッションに時間をかけることが出来たので良かったと思います。また、YouTubeは何度も視聴することができ、この研修会を通して知った慢性疼痛講座も含めて勉強になりました。

改善してほしい点：研修会の改善とは少々異なりますが、研修会を通して慢性疼痛に理解のある医療職種を増やしていくだけでなく、北原先生のお力で行政（横浜市、神奈川県）に慢性疼痛の協議会ができ、行政も参画した慢性疼痛のネットワークが構築されたらと思います。一例では横浜市では国の法律施行を受けて医療的ケア児者の委員会が設立され、多職種で協議をおこない、各職種が連携して医療、教育等の支援をおこなっています。この様な支援体制が慢性疼痛においてもできればと思っております。

【29歳男性，臨床心理士，公認心理師】

良かった点：多職種の方の意見を聞き、違う視点を持つことができた点。

改善してほしい点：・当アンケート上部や動画教材でも盛んに心理的な介入の必要性を述べておきなが

ら、症例検討の中ではほぼ全く心理的要因への言及がなされていなかった点(孤立を防ぐ、ということ程度でしょうか?)。それで心理社会的視点が必要！と言われても説得力を感じない。

・プレテストの「職種」の欄に、臨床心理士・公認心理師ともに項目がないこと。心理社会的側面へのアプローチが重要！心理職との連携も重要！と言いつつ、職種の中で忘れ去られているということは、運営の方々にとって心理職の存在はさほど重要と思われていないのだな、と思うと、大変残念で、寂しい気持ちになりました。

**【43歳男性，理学療法士】**

良かった点：オンラインに慣れておられるのか、円滑な運営でした。さまざまな立場からの意見を聞くことができました。

**【58歳男性，鍼灸師】**

良かった点：多職種の方々とディスカッションができたり意見を聞く機会があり、視野が広がりました。また、チームごとのディスカッションの際にファシリテーターの方がうまく意見を引き出したりまとめたりしていただけて助かりました。

改善してほしい点：特にありません。大変勉強になりました。ありがとうございました。

**【43歳男性，理学療法士】**

良かった点：多職種の方々と症例検討ができたこと。様々なお考えを聞いて大変勉強になりました。

**【54歳男性，鍼灸師】**

良かった点：私でもセッションする事によって様々なお話を聞けたり出来た事

改善してほしい点：『ポストアンケート』の職種欄に私の職種の鍼灸師が無かったので介護職とさせていただきます。

**【56歳男性，医師】**

良かった点：多職種でディスカッションできた

改善してほしい点：テキストに沿ったアドバンスコースをつくってほしい

**【39歳男性，理学療法士】**

良かった点：様々な職種の方とディスカッションができてよかった

改善してほしい点：特にありません。貴重な機会をありがとうございました。

**【39歳男性，臨床心理士 公認心理士】**

良かった点：他職種の方の考えを聞くことができた。

**【59歳男性，歯科医師】**

良かった点：歯科ではあまり他の領域の専門家の話を聞くことができまいが、多職種の方とディスカッションできたので、いろいろな見方をする必要があることが理解できた。また事前に要点を解説いただいたので理解しやすかった。

改善してほしい点：多職種が集まったのディスカッションでしたが、最後に各分野からそれぞれの立場での見方をお聞きできると良かったと思います。ご準備が大変だったと思います。また参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

**【65歳女性，医師】**

良かった点：WEB 講習会であることにより日曜日でも体力的負担が少ない。講習会前後のアンケートが良かった。いただいた本がとても良い。他業種に過多のアプローチの仕方が勉強できた。

改善してほしい点：時間的には一杯一杯かもしれませんが、症例をもう一つぐらいあると面白いかと思いました。

**【49歳男性，理学療法士】**

良かった点：症例を検討するなかで、多職種連携の必要性を再認識できました。いろいろな角度からのディスカッションができて、とても有意義な時間でした。運営サイドの皆様、ありがとうございました。

改善してほしい点：とても有意義な研修会でしたので、特にございません。

提案と致しまして、同一症例について、各グループが治療方針を立てて発表した上で、ディスカッションをおこない、いろいろな角度の思考を学びあう取り組みもおこなってみたいです。本日はありがとうございました。

**【26歳男性，理学療法士】**

良かった点：具体的な症例を多職種でディスカッションでき、自分に足りない部分に気づくことができた。

**【62歳男性，医師】**

良かった点：疼痛のメカニズムや薬物療法に関心がありますが、疼痛の臨床を知らなかったので大変勉強になりました。ありがとうございました。

改善してほしい点：特にありませんが、あの症例で鎮痛薬の代替療法として、鍼灸等のようなチョイスがあるのかを知りたかったです。

【54歳女性，鍼灸師】

良かった点：歯科医、内科医、PT、鍼灸師など他業種で話すことができたこと。

改善してほしい点：とくにありません。定期的にこのような勉強会があればと思います。ありがとうございました。

【32歳女性，臨床心理士 公認心理士】

良かった点：多職種で症例検討し、多角的な視点で話し合うことができて良かったです。ありがとうございました。

【46歳男性，柔道整復師，鍼灸師】

良かった点：他職種の方々と意見を交わさせられて勉強になった。

参加料  
無料

**厚生労働省 令和2年度  
神奈川県庁 大学発政策提案事業**

**システム普及・人材養成モデル事業  
慢性疼痛診療オンライン研修会**

集学的治療のペインクリニックで実際にどんな患者さんが治療  
されているか学んでみませんか？

～症例検討で実際のケースが学べます～

日時

2021年3月7日（日）  
AM10:00～AM12:00

ZOOM

参加者には事前に研修会詳細と参加  
アドレスをメールでお知らせします。

参加資格

医療職（医師、歯科医師、看護師、理  
学療法士、鍼灸師、薬剤師、心理士な  
ど） 先着30名

申し込み締め切り

2021年2月28日（日）

事前にオンデマンドによる  
約1時間半の動画学習が参加条件です。



講師 北原雅樹

10:00～	司会挨拶
10:10～	オンデマンド講義に対する質疑 応答
10:50～	休憩
11:00～	症例提示とディスカッション
11:50～	まとめ

お申込み  
お問い合わせ

URL <https://forms.gle/y1ozTJLC11MyFUPK6>



参加者にはテキスト「疼痛医学」をプレゼントします！

## カンファレンス見学者感想文

### 横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科 集学的治療を見学して

医療法人社団グリーンデンタルクリニック理事長  
神奈川歯科大学臨床教授  
島田 淳

2020年11月27日に、横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック内科を見学させていただきました。当科は、ペインクリニックに内科がついているという珍しい科名なので、部長の北原先生にお尋ねしたところ、当科は診断を大切にしているからというお話でした。実際、見学させていただくと、初診の患者さんに念入りな医療面接と診察・検査の後、詳しい病態説明と診断。そして今後の治療について他科での診察を含め、患者さんの生活環境を考慮した治療環境の可能性について細かい相談をしているのを拝見し、診断というだけでなく、医療者—患者関係など内科的なアプローチも大切にしていることから内科と標榜されていることに納得できました。さらに、昼のカンファレンスにも参加させていただきました。当日は、精神・重症カンファレンスと伺いましたが、カンファレンスは精神科医を含め心理士や看護師も参加され、患者さんの心理社会的因子に踏み込んだカンファレンスからは、慢性痛がさまざまな要因を考慮して扱わなければいけない疾患であることを再認識するとともに、慢性痛治療における、複数の専門医療者による集学的痛み治療の必要性が理解できました。またその後、北原先生の難治性慢性痛患者さんへの対応を見学させていただき、患者さんに寄り添うだけでなく、患者さんの認知を変えるためには、エビデンスを踏まえた上での厳しい対応も必要であることがわかりました。

私は歯科医師で、主には開業医として仕事をしていますが、歯科顎関節症専門医、口腔顔面痛専門医として、大学病院で常勤として19年、その後、大学病院で非常勤となりながら、開業医として15年、様々な口腔顔面痛領域の慢性痛患者さんを診療しています。歯科は、残念ながら、医科を含めた他の医療職との連携が難しく、歯科医師のみで対応することが多く、また医療保険で対応できることが少ないことから、多くの歯科医師が対応を敬遠してきました。しかし、現在、口腔顔面領域の慢性痛を訴える患者さんが増えていることや、歯痛を訴えて来院する患者さんの何割かは歯以外の原因で歯痛が生じており、歯科医師にも疾患を広く診ることが求められています。また心理社会的問題を抱えた患者さんも増えており、精神科医や心理士と連携ができる環境を作ることが早急に必要となっています。

今回、1日ではありますが、集学的治療を初めて見学させていただき、大変有意義でしたが、集学的治療に歯科医師も加えていただくためには、より積極的に、自ら関わっていくことの必要性を感じました。

**患者カルテの一部：患者からも集学的治療が評価されている貴重な資料である。**

#### 抜き書き

「痛みの程度は変わらないが、自分で少しでも紛らわせようとして不安の程度は軽減している。日中に痛みのことを考えなくなっている。薬が効いていて痛みの事を考えなくなったことに加え、前にやっていたことを思い出して細かい物作りをしたり楽しみのことを考えるようになった。今まで痛みのことでこんなに見てくれる病院はなかったが、今は体と心と栄養と全体を診てもらっているので、自分も頑張ろうと思えている。自分でやる課題が多いが、痛みをダイレクトに受けているだけだったのが、運動療法、リラクゼーションなどやってみようと思えるのでそれもあって前向き。ただし、突発的な痛みが襲ってきたときに、気持ちがどう揺らぐかわからない。何かあったらペインクリニック内科に。」

#### 報告書作成者：

北原 雅樹 医師、公認心理師。横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック 診療教授。

浅枝 まり子 公認心理師。横浜市立大学附属市民総合医療センター ペインクリニック コーディネーター・事務局長

星野 諒太 横浜市立大学附属市民総合医療センター 研究助手



## 千葉大学医学部附属病院

### 1) 成果概要

千葉県では千葉大学医学部附属病院痛みセンターを中心とし、地域の難治性疼痛に関する連携体制を構築している。具体的には、千葉県の医療施設に勤務する医師、コメディカルを対象に慢性疼痛診療研修会(厚労省 慢性疼痛診療体制構築モデル事業)を定期的に実施している。また、千葉県下の多施設多職種からメンバーを募り、千葉 total pain management (TPM) WG を組織している(総勢 33 名)。本 WG では参加メンバーの痛み診療レベル向上のため、定期的に web セミナーを開催している。加えて、運動療法を中心とした慢性疼痛治療アプリ(メインは患者用リハビリ動画)を開発中である。更に、千葉大学医学部附属病院痛みセンターと協力施設(医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院)が連携し、難治性疼痛患者に対する入院リハビリテーション依頼および連携施設の痛み診療レベルアップのためのコメディカルに対する痛み診療に関する研修会実施も行っている。

### 2) 痛み診療コーディネーターの配置の有無と職種

配置：有

配置した施設：医療法人社団城東桐和会タムス浦安病院

配置した職種：作業療法士 1 名

### 3) 研修会の開催回数

- ・ 痛み財団に準ずる研修会 1 回(参加人数 40 名)
- ・ 人材育成の研修会 5 回(参加人数 延べ 120 名)

内訳：

医師 延べ 22 名

臨床心理士 延べ 10 名

理学療法士 延べ 65 名

作業療法士 延べ 6 名

看護師 延べ 12 名

薬剤師 延べ 4 名

MSW 延べ 1 名

令和2年度 関東甲信越ブロック

厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

# 慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、  
グループディスカッションを行います。  
慢性疼痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

日時

2021年 2月28日(日)9:00 - 12:30

会場

Zoomオンライン会議システム

定員

関東甲信越地区 医療施設勤務者に限る

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士  
臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師

1. 痛みの多元性を知ろう
2. 慢性疼痛の分類:ICD-11を知ろう
3. 症例を知ろう
4. 痛みの多面的評価を知ろう
5. 痛みの治療を知ろう
6. 症例を体験しよう

参加申し込み

<https://forms.gle/jqfoyTk55NRMvgi2A>

申込期限：2021年2月21日(日)

定員になり次第締め切ります

お問合せ：一般財団法人日本いたみ財団  
itamizaidan@gmail.com

主催：厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区」  
千葉大学大学院医学研究院整形外科学  
共催：一般財団法人日本いたみ財団



# 慶應義塾大学医学部附属病院

## 1) 成果概要

当施設は、約 35 の関連教育中核病院を所有する大学病院の特性を利用して、慢性疼痛診療構築モデル事業を通じて、慢性疼痛診療に精通する医療人の教育・排出を目標とした。また、関連病院・連携医療機関に慢性疼痛診療の情報を発信し、医療紹介連携を深めることも目標とした。

## 2) 痛み診療コーディネーターの配置の有無と職種

痛み診療コーディネーターとして、臨床心理士を 1 名配置した。

## 3) 研修会の開催回数 1 回

第 1 回 慶應義塾大学 慢性疼痛診療研修会

開催日 令和 2 年 1 2 月 6 日 9 時～12 時 30 分

場所 WEB 開催

参加者 19 名+講師・ファシリ 7 名

慶應関連病院および連携医療機関の医師・歯科医師・臨床心理士・理学療法士・看護師を対象とした慢性痛診療（1. 痛みの多元性を知ろう。2. 慢性疼痛の分類：ICD-11 を知ろう。3. 症例を知ろう。4. 痛みの多面的評価を知ろう。5. 痛みの治療を知ろう。6. 症例を体験しよう）に関する研修会を実施した。

令和2年度 厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

日時：令和2年 12 月 6 日 (日) 9:00～12:30

場所：オンライン開催 (ZoomによるWEBライブ配信)  
※参加の際には次ページのzoom推奨環境をご確認ください

対象：医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師  
※関東甲信越地区 医療従事者に限らせていただきます

### 研修会プログラム

1. 痛みの多元性を知ろう
2. 慢性疼痛の分類：ICD-11を知ろう
3. 症例を知ろう
4. 痛みの多面的評価を知ろう
5. 痛みの治療を知ろう
6. 症例を体験しよう

参加費無料  
定員30名  
先着順

▶ 参加申込 以下フォームより参加申込ください。  
<https://forms.gle/ZdVvnYGbyT58sJi9>

参加申込期間 ※定員になり次第締め切ります  
○ 慶應義塾大学病院連携施設 勤務従事者：10月1日(木)～11月30日(月)  
○ 一般参加/医療従事者：11月1日(日)～11月30日(月)

お問い合わせ先：一般財団法人 日本いたみ財団 事務局 Email: itamizaidan@gmail.com

主催：厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」関東甲信越地区  
慶応義塾大学病院 痛み診療センター  
共催：一般財団法人 日本いたみ財団

## 日本大学医学部附属板橋病院 緩和ケア・痛みセンター報告

### ※ 連携体制の構築状況、具体的な連携手法及びその効果

連携協力病院、並びに当院の痛みセンターあるいはペインクリニックに患者さんをご紹介頂いた医療機関に対して、年2回開催している慢性痛の研修会のフライヤーを郵送する際、カバーレター内に下記の内容もお伝えするようにしています。

対象患者さんの特徴は、通常の痛み治療に抵抗性の痛みであり、日常生活に支障を来して、器質的な原因からは不釣り合いな強い痛みの訴えが継続している慢性痛の患者さん、あるいは痛み原因を知りたい申し出がある患者さんを積極的に当院の痛みセンターに紹介してもらう働きかけをしています。

加えて当院の痛みセンターにご紹介を頂く患者さんには、痛みの原因を見出すために、看護師、薬剤師、精神科医、ペインクリニック医の順番の診察を受けて頂く必要があることを患者さんに伝えて頂くようお願いしています。当院の痛みセンター予約を円滑に行うためです。これまで、多職種診察を理由に予約を取り下げの場面はありませんでした。

担当医師には、患者さんへの問診、診察を通じて、まず患者さんとの信頼関係構築に勢力を注ぎ、その後の生活歴や仕事歴の問診を介して生物・心理・社会的要因評価を行い、1つの診療科では見出すことのできにくい各患者での具体的な生物・心理・社会的を見出す診療スタイルが特徴と説明をしています。

最終的にこれらの評価をまとめて、患者さんへの痛み教育に加えて、個々の患者さんに痛みの原因と痛みの対応法を提示することを通じて、利用者が自ら主体的な痛み対応力を引き出すことを目指していることを伝えていきます。つまり、初診診察から認知行動療法的な介入をすることになっています。その後の治療先は、患者さんの意向を優先させながら、当院のペインクリニックなどの単独の診療科、あるいは複数の診療科、あるいはご紹介頂いた医療機関との併診を決めています。

### 診療連携体制参加機関数 5

#### 医療機関

日本大学病院

日本大学歯学部附属歯科病院

要町病院

立原医院

慶成会歯科医院



## 延べ診察人数

288名、逆紹介22名

## 合同カンファレンス開催回数 40回

## 研修会開催回数 2回

受講延べ人数 139名

## 研修会へ参加した診療科・職種

医師63名（ペインクリニック・麻酔科33、整形外科5、精神科2、内科3、小児科20）、歯科医師11名、看護師27名、薬剤師11名、チャイルドライフスペシャリスト9名、心理士7名、作業療法士1名、理学療法士2名、学生2名、鍼灸師1名、事務担当者5名

厚生労働省「令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業」

日本大学医学部附属板橋病院 緩和ケア・痛みセンター共催

### 慢性疼痛診療 オンライン研修会

新型コロナウイルス感染予防のためにオンライン研修会になります。  
慢性疼痛と対応法の最新知見を一緒に学びましょう。

●プログラム●

慢性疼痛患者の特徴と地域連携の必要性 語りを読くと見える痛みのストーリー ～看護師診療の役割と意義～	川井 康嗣 山本実保子	ペインクリニック医/仙台ペインクリニック石巻分院 がん看護専門看護師/日本大学医学部附属板橋病院看護課
成人慢性疼痛患者に対する薬物治療の 現状と薬剤師の必要性	上島健太郎	緩和医療療法認定薬剤師/がん薬物療法認定薬剤師 日本大学医学部附属板橋病院薬剤部
整形外科の観点から慢性疼痛患者診療の留意点	龍世田健文	整形外科医/医療法人社団博愛会桂葉園北本病院
慢性疼痛に対するリハビリテーション	鳥沢 伸大	作業療法士/日本大学医学部附属板橋病院リハビリテーション科 専修/実演者
オンライン診療のロールプレー体験	和村 康市	精神科医/日本大学医学部精神神経科
精神科領域から見た慢性疼痛 薬学的診療の意義 患者さんへ痛み教育の実践	横瀬 宏実 加藤 実	精神科医/日本大学医学部精神神経科 ペインクリニック医/日本大学医学部麻酔科

・日時：2020年11月15日 日曜日 10時から16時（お昼休み 12時20分から13時00分）  
・対象者：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床心理士、  
医療社会福祉士、医療連携事務などの医療関係者

・定員：定めます。受付期間内に事前申し込みをされた方は全員受講できます。

・無料：申し込み頂いた方は全員受講できます

●申し込み方法●

1) オンライン研修会が実施期となりますので入室室可、途中参加可です。  
2) 集合研修室（メッシュ）とロールプレー用のグループ研修室（プレイクアトルーム）の2つの空間で参加型の研修を実施するため、お互いの知り合い、安心感を持って参加頂くために、参加者の皆様には「実名」、「開会式（仮名）」モードでの参加をお願いします。

●申し込み先：med.mansei.itami@nihon-u.ac.jp 事務受付 鹿渡

申し込み時は下記の項目の記載をお願いします  
氏名 漢字（ふりがな）、所属機関名、部署名、職種、メールアドレス  
尚、受講証をメールアドレスに送るので、med.mansei.itami@nihon-u.ac.jp を受信するよう設定してください。

●参加申し込み受付期間：2020年10月7日 水曜日 午前9時から 10月28日 水曜日 午前11時まで  
尚、期間前、期間中には、受付しませんのでご注意ください。

●参加に関するお問い合わせ先：Email: med.mansei.itami@nihon-u.ac.jp  
オンライン発信事務局：お茶の水ソラシティカンファレンスセンター Room B  
Zoom ネットワークを通じて配信します。

慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業  
関東甲信越地区 オンライン研修会

厚生労働省「令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業」

日本大学医学部附属板橋病院 緩和ケア・痛みセンター共催

### 小児慢性疼痛診療 オンライン研修会

小児慢性疼痛と対応法の最新知見を一緒に学びましょう。

●プログラム●

慢性疼痛患者と注意すべき小児科疾患	川口 忠恭	小児科医/日本大学医学部小児科
慢性疼痛患者に潜む整形疾患の留意点	平良 勝章	整形外科医/埼玉国立小児医療センター
慢性疼痛患者に対する心理的アプローチのポイント	高橋 桃子	臨床心理士/日本大学医学部小児科 実演者、併席
伊藤さんによるロールプレー説明	梶村 康一	ペインクリニック医/日本大学医学部麻酔科
CRPS 患児のロールプレー動画視聴	松井 美貴	精神科医/日本大学医学部精神神経科
精神科領域から見た慢性疼痛	久保 英之	精神科医/日本大学医学部精神神経科
慢性疼痛患者と保護者へのアプローチの実践	佐藤 今子	慢性疾患専門看護師/日本大学医学部附属板橋病院
薬物アプローチの差別化 多職種介入とトータルケアの実践	加藤 実	ペインクリニック医/日本大学医学部麻酔科
オンライン多職種 症例検討会 1	松井 美貴	ペインクリニック医/日本大学医学部麻酔科
CRPS って何、知ることから関わりへ	坂田和佳子	薬剤師
オンライン多職種 症例検討会 2	鳥沢 伸大	作業療法士
下肢痛による歩行困難な10代への対応	荒井 梓	ペインクリニック医/日本大学医学部麻酔科
	坂田和佳子	薬剤師
	鳥沢 伸大	作業療法士

・日時：2021年2月21日 日曜日 10時から16時（お昼休み 12時15分から13時00分）  
・対象者：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床心理士、  
医療社会福祉士、医療連携事務などの医療関係者

・定員：定めます。受付期間内に事前申し込みをされた方は全員受講できます。

・無料：申し込み頂いた方は全員受講できます

●参加にあたってのお願い●

1) Zoom ミーティングによるオンラインライブ研修です。当日は9時30分より受付（入室）を開始し、研修会途中からの参加や退室も可能です。  
2) 今回は録画形式の受講です。お互いを知り合い安心感を持って受講頂くため、皆様が見る画面は「実名表示」「顔出し（任意）」での参加をお願いします。  
3) Zoomの使い方や機器設定等については、こちらをご参照ください。  
<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/206175806-よくあるご質問（FAQ）>

●申し込み方法●

1) 下記 QRコードの「参加申し込みフォーム」より申し込む。  
2) 必要事項を記載して、研修会事務局（med.mansei.itami@nihon-u.ac.jp）にメールで申し込む。  
【必要事項】①氏名 ②氏名（カタカナ） ③所属機関名・部署名 ④職種  
※当日 Zoom ミーティングに参加するメールアドレス  
なお、どちらの方法でも、申し込みで使用された貴方のメールアドレスに、受付受理通知を返信いたします。  
前もって med.mansei.itami@nihon-u.ac.jp を受信する設定になっていることを確認してから、お申し込みください。  
また申し込み後5日経っても返信がない場合は、迷惑メール等に振り分けられている可能性があります。研修会事務局にご連絡ください。

●参加申し込み受付期間：2021年1月15日 金曜日 午前9時から 2月5日 金曜日 午前11時まで  
尚、期間前、期間中には、受付しませんのでご注意ください。

●参加に関するお問い合わせ先：Email: med.mansei.itami@nihon-u.ac.jp  
オンライン発信事務局：お茶の水ソラシティカンファレンスセンター Room A  
Zoom ネットワークを通じて配信します。

慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業  
関東甲信越地区 オンライン研修会

## 新潟大学医歯科学総合病院

### 新潟大学での連携体制の構築状況：

診療連携体制参加機関数：29 医療・教育機関より、新潟県慢性疼痛モデル事業のワーキングメンバー23名を選出し、キックオフミーティング、以下の症例検討会や施設紹介、慢性疼痛診療研修会を行うことで、連携体制を構築している。

#### 1) 合同カンファレンス・施設紹介開催回数（全2回）

第1回新規施設紹介（ながたクリニック、新潟大学病院歯科麻酔科），症例検討（2例）  
（2020年8月4日、23名参加、オンライン）

第2回新規施設紹介（長岡中央総合病院リハ科），症例検討（2例）  
（2020年12月8日、18名参加、オンライン）

#### 2) 慢性疼痛診療研修会開催（全2回）

第1回研修会（オンライン開催）：参加者数28名（2020年9月6日）

第2回研修会（オンライン開催）：参加者数25名（2021年2月21日）

※講師・ファシリテータを除く。

- ・研修会参加職種：医師（整形外科，麻酔科，歯科），理学療法士，作業療法士，看護師，臨床心理士，機能訓練士，院生，学部生

### 具体的な連携手法及びその効果：

新潟県の診療連携をもとに、各施設からの患者紹介を行い、慢性疼痛患者の診療を充実させ、「疼痛難民」を無くす事を実行している。効果として、新潟大学医歯学総合病院（リハ科および麻酔・ペインクリニック科）へ他医療施設からの紹介は、県立新発田病院から3例、新潟市民病院から5例、長岡中央総合病院から5例、他の病院・クリニックから5例の紹介を合わせ、概算で20名程度の診察を行っている。

厚生労働省 令和2年度 慢性疼痛診療体制モデル事業  
**第1回**  
**新潟県慢性疼痛診療研修会**

2020年 **9月6日(日)** 10:00-13:00

**参加費 無料** 募集人数:40名

対象：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、薬剤師。

新型コロナウイルス感染予防のため、Zoom（もしくはTeams）による研修会となります。慢性疼痛に関する最新知見をぜひこの機会と一緒に学びましょう。

1. 痛みの多元性を知ろう  
講師：渡辺 慶 先生（新潟大学医学総合病院）
2. 慢性疼痛の分類：ICD-11を知ろう  
講師：内山 徹 先生（内山整形外科医院）
3. 症例を知ろう  
講師：内山 徹 先生（内山整形外科医院）
4. 痛みの多面的評価を知ろう  
講師：岩崎 円 先生（新潟大学医学総合病院）
5. 痛みの治療を知ろう  
・薬物療法を知ろう 講師：田中 萌生 先生（新潟大学医学総合病院）  
・運動療法を知ろう 講師：北村 拓也 先生（新潟リハビリテーション大学）  
・心理療法を知ろう 講師：平子 雪乃 先生（明治学院大学）  
・手術療法を知ろう 講師：八幡 美緒 先生（西新潟中央病院）
6. 症例を体験しよう  
講師：木村 慎二 先生（新潟大学医学総合病院）

認定NPO法人いたみ医学研究情報センターが行っております「からだ・運動器の痛み専門医療者」への単位の付け替えが可能です。別途費用が必要です。

**お申込みお問い合わせ**

新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻  
担当：北村 拓也 〒958-0053 新潟県村上市上の山2-16  
E-mail: kitataku11260207@gmail.com TEL: 0254-56-8292

厚生労働省 令和2年度 慢性疼痛診療体制モデル事業  
**第2回**  
**新潟県慢性疼痛診療研修会**

2021年 **2月21日(日)** 9:30-13:00

**参加費 無料** 募集人数:40名

対象：医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー、薬剤師。

新型コロナウイルス感染予防のため、Zoomによる研修会となります。慢性疼痛に関する最新知見をぜひこの機会と一緒に学びましょう。

開会の挨拶、概要説明（9:30-9:40） 木村慎二先生（新潟大学医学総合病院）

アイスブレイク（9:40-9:50）

1. 痛みの多元性を知ろう（9:50-10:10）  
講師：稲毛 一秀先生（千歳大学大学院）
2. 痛みの多面的評価（ICD-11を含む）を知ろう（10:10-10:30）  
講師：北村 拓也先生（新潟リハビリテーション大学）
3. 各種慢性疼痛疾患の病態（10:30-10:50）  
講師：高橋 美穂先生（西新潟中央病院）
4. 痛みの治療を知ろう  
・薬物療法・インターベンション治療を知ろう（11:10-11:25）  
講師：渡部 達範先生（魚沼基幹病院）  
・運動療法を知ろう（11:25-11:40） 講師：田村 友典先生（長岡中央総合病院）  
・心理療法を知ろう（11:40-12:00） 講師：細越 真樹先生（関西大学）  
・手術療法を知ろう（12:00-12:15） 講師：庄司 寛和先生（新潟市民病院）
5. 症例を体験しよう（12:15-12:45）  
講師：木村 慎二先生（新潟大学医学総合病院）

閉会の挨拶 内山 徹先生（内山整形外科医院）

認定NPO法人いたみ医学研究情報センターが行っております「からだ・運動器の痛み専門医療者」への単位の付け替えが可能です。別途費用が必要です。

**お申込みお問い合わせ**

参加申込は**コチラ**↓

新潟リハビリテーション大学 理学療法学専攻  
担当：北村 拓也 〒958-0053 新潟県村上市上の山2-16  
E-mail: kitataku11260207@gmail.com TEL: 0254-56-8292





# 2020年度厚労省慢性疼痛診療事業報告

## 獨協医科大学 麻酔科学講座

研究分担者 山口重樹

研究協力者 木村嘉之, 藤井宏一

### 1) 成果概要

本年度は新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、多人数が集まる集会やイベントを開催することが困難であった。そのため web を利用した研修会を開催し、慢性疼痛診療の存在の啓蒙と基礎知識の教育を行った。研修会は 3 回おこない、研修内容は研究分担地域での均霑化のため共通のコンテンツを使用した。1 回目は初めての web 研修会でもあり、試験的に本学に勤務する麻酔科医、歯科医師を対象とした。2 回目研修会は対象を地域に広げ、多職種での研修会を行った。この回では過去に参加者の少なかった薬剤師が多く出席し、本事業の目的の一つである慢性疼痛診療の存在を広める目的をある程度達成することができた。3 回目の研修会では近隣県の医師を中心に研修会を行い、痛みセンターと近隣医師との連携強化を試みた。しかし、研修プログラムのワークショップでは活発な討論がなされたが、それ以外の会話は難しく、施設間での連携強化が達成できた印象はない。web 研修会の今後の課題と考える。

### 2) 痛み診療コーディネーターについて

当施設では痛みセンターに所属するスタッフが必要に応じて他科や多施設との連携を行っており、コーディネーターとしての専従は置いていない。また、地域連携や医療資源活用について、痛み診療に特化した部署はないが、大学の該当部署を利用しており、有効に機能している。

### 3) 研修会

いたみ財団に準ずる研修会 3 回

#### 第 1 回

11 月 30 日	20:00	1 : 痛みの多源性を知ろう	獨協医科大学麻酔科学講座	木村嘉之
		2 : 痛みの分類を知ろう	獨協医科大学麻酔科学講座	山口重樹
12 月 7 日	20:00	3 : 症例を知ろう	獨協医科大学麻酔科学講座	濱口真輔
12 月 14 日	20:00	4 : 痛みの多面的評価	東北福祉大学	武村尊生
12 月 21 日	20:00	5 : 痛みの治療	福島県立医科大学整形外科	二階堂琢也

参加者：医師 24 名，歯科医師 1 名

研修修了者 17 名（複数日に行ったため全出席したもののみ終了とした）

## 第2回 2021年2月11日

- |   |                         |               |       |
|---|-------------------------|---------------|-------|
| 1 | 痛みの多元性を知ろう              | 獨協医科大学緩和ケア部門  | 白川 賢宗 |
| 2 | 痛みの分類（ICD-11）を知ろう       | 獨協医科大学麻酔科学講座  | 寺島 哲二 |
| 3 | 痛みの多面的評価を知ろう            | 星総合病院整形外科     | 高橋 直人 |
| 4 | 痛みの治療を知ろう，薬物療法と神経ブロック療法 | 獨協医科大学麻酔科学講座  | 藤井 宏一 |
| 5 | 痛みの治療を知ろう，心理療法          | 東北福祉大学        | 武村 尊生 |
| 6 | 痛みの治療を知ろう，運動療法          | 星総合病院慢性疼痛センター | 二瓶 健司 |
| 7 | 症例検討                    | 獨協医科大学麻酔科学講座  | 木村 嘉之 |

参加者：医師 2 名，歯科医師 2 名，理学療法士 5 名，柔道整復師 7 名，薬剤師 25 名，看護師 2 名，保健師 1 名

## 第3回 2021年3月21日

- |   |                         |               |       |
|---|-------------------------|---------------|-------|
| 1 | 痛みの多元性を知ろう              | 獨協医科大学緩和ケア部門  | 白川 賢宗 |
| 2 | 痛みの分類（ICD-11）を知ろう       | 獨協医科大学麻酔科学講座  | 寺島 哲二 |
| 3 | 痛みの多面的評価を知ろう            | 星総合病院整形外科     | 高橋 直人 |
| 4 | 痛みの治療を知ろう，薬物療法と神経ブロック療法 | 獨協医科大学麻酔科学講座  | 藤井 宏一 |
| 5 | 痛みの治療を知ろう，心理療法          | 東北福祉大学        | 武村 尊生 |
| 6 | 痛みの治療を知ろう，運動療法          | 星総合病院慢性疼痛センター | 二瓶 健司 |
| 7 | 症例検討                    | 上智大学総合人間科学研究科 | 増田 紗弓 |

参加者：医師 17 名

令和2年度 関東甲信越ブロック 獨協医科大学主催  
厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 慢性疼痛診療研修会

Zoomオンライン会議システムでの開催となります。  
明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、  
グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

**第1回** 痛みの多元性を知ろう  
痛みの分類を知ろう  
日時:2020年11月30日 20:00~21:00

**第2回** 症例を知ろう  
日時:2020年12月7日 20:00~21:00

**第3回** 痛みの多面的評価  
日時:2020年12月14日 20:00~21:00

**第4回** 痛みの治療  
日時:2020年12月21日 20:00~21:00

※全4回を終了後に受講証明書を発行いたします。

参加をご希望の方は下記よりお申込みください。

<https://forms.gle/G9ZormBVcv9NqjkW6>

受講対象者: 栃木県内の医療施設勤務者に限る

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士  
臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師

申込期限: 2020年11月24日(火) 定員になり次第締め切ります

主催: 獨協医科大学 麻酔科学講座

お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局 Email: itamizaidan@gmail.com



令和2年度 関東甲信越ブロック 獨協医科大学主催  
厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 慢性疼痛診療研修会

Zoomオンライン会議システムでの開催となります。  
明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び  
グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

**日時** 2021年2月11日(木・祝)  
9:30~13:00

**会場** Zoomオンライン会議システム

- 1 痛みの多元性を知ろう
- 2 痛みの分類(ICD-11)を知ろう
- 3 痛みの多面的評価を知ろう
- 4 痛みの治療を知ろう、薬物療法と神経ブロック療法
- 5 痛みの治療を知ろう、心理療法
- 6 痛みの治療を知ろう、運動療法
- 7 症例検討

参加をご希望の方は下記よりお申込みください。

<https://forms.gle/Lnt8jq4f1iS9FrWB6>

受講対象者: 関東甲信越ブロックに勤務の医療従事者

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士  
臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師

申込期限: 2020年2月4日(木) 定員になり次第締め切ります

主催: 獨協医科大学 麻酔科学講座

お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局 Email: itamizaidan@gmail.com



令和2年度 関東甲信越ブロック 獨協医科大学主催  
厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 慢性疼痛診療研修会

Zoomオンライン会議システムでの開催となります。  
明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び  
グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

**日時** 2021年3月21日(日)  
9:30~13:00

**会場** Zoomオンライン会議システム

- 1 痛みの多元性を知ろう
- 2 痛みの分類(ICD-11)を知ろう
- 3 痛みの多面的評価を知ろう
- 4 痛みの治療を知ろう  
①薬物療法と神経ブロック療法  
②心理療法  
③運動療法
- 5 症例検討

参加をご希望の方は下記よりお申込みください。

<https://forms.gle/Z16L1pYtBFDBcxs18>

受講対象者: 関東甲信越ブロックに勤務の医療従事者

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士  
臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師

申込期限: 2020年3月15日(月) 定員になり次第締め切ります

主催: 獨協医科大学 麻酔科学講座

お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局 Email: itamizaidan@gmail.com

